



# 走れ向陽!

相馬市立向陽中学校 学校だより  
〒976-0037  
相馬市中野字桜町76  
TEL:35-2348 FAX:35-2849 第22号  
発行 責任者：校長 反畑増生  
令和6年3月22日(金)

## 〈教育目標〉

「知性」「品格」「至誠」「体力」を身につけた活力ある生徒

## 令和5年度が無事修了

本日、3月22日(金)に実施しました修了式をもって、令和5年度の教育課程の全てを修了致しました。新型コロナウイルスが5類に移行したこともあり、保護者の皆さんの協力の下、バザーや食堂を実施するなど確実に復活の兆しが見えた向陽祭、中体連における9つの部の団体・個人戦の県大会出場、さらには女子卓球部の団体戦、男子柔道部、女子水泳競技の個人戦東北大会出場、吹奏楽部の県下小・中音楽祭への出場等、生徒たちは自分の力を伸ばすために一生懸命頑張った一年間となりました。

来年度は重点目標を「気づき、考え、行動できる ～ Always Be A Creator! ～ (常に創造者たれ!)」と定め、個々の生徒の自己実現を図るため、より一層、教育活動の充実に努めていきたいと考えておりますので、変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

～以前話したように、どの学校にも必ず重点目標というものがあります。本校の今年度の重点目標は、皆さんが知っている通り「気づき、考え、行動できる」そしてこの後にサブタイトルとして「～ Always Be A Challenger ～」、日本語に訳すと「常に挑戦者たれ」という言葉が続いています。これを受けて今年度の取組のポイントとして、生徒会や学級役員などのリーダー的な生徒に頼ることなく生徒一人一人がそれぞれ皆、学校生活において「気づき、考え、行動できる」を実行する、また、生活面だけではなく授業等学習面においても「気づき、考え、行動できる」そういう態度で常に学習に臨む、ということを中心として取り組んできました。年度の終わりにあたり、もう一度それぞれに目標の達成がしっかり行えたか自分自身の取組状況について確認をして欲しいと思います。

さて、話しは変わりますが、本日、学年を修了するにあたり、私からの最後の話として、夢の実現に関することについて少しだけ話しをしたいと思います。私ごとになりますが、私には40年以上の間ずっと大切にしているある歌があります。その歌とは今から100年以上前の明治時代に活躍し、26歳という若さでこの世を去った石川啄木が詠んだ歌です。どのような歌かというと、こんな歌です。

「不來方の お城の草に寝ころびて 空に吸はれし 十五の心」

この歌は、啄木が中学校時代の自分を回想して創作した短歌の一つだと言われています。当時の啄木を取りまく状況は、この歌が持っている希望あふれるイメージとは真逆な状況にあったと言われています。むしろ、その頃の啄木は貧困と何をやっても自分の思うとおりの事が進まないという苦境の中で一人もがき、苦しんでいたというのが実情だったようです。しかし、そういう絶望的な状況にあっても啄木は決して悲嘆する事なく、むしろ空の青さを感じ、自分の可能性を大きく膨らませていたといわれています。人生は残念ながら、順調に全てが上手くいくことばかりではありません。むしろ、大きな壁にぶつかり自分の力のなさを痛感することの方が多いのが実情です。しかし、どんな時でも、いつも下を向かず顔をあげ、空の青さを感じながら、新たな希望を胸に抱き、前向きにそして堂々と自分の人生を切り拓いていって行くことが何よりも大切であると私はいつも思っています。

1、2年生の皆さんは、本日の修了式をもって無事に1学年ずつ進級することとなります。来年度は常に順風満帆なことばかりではないのかもしれませんが、しかし、自分を信じ、高い目標を掲げ、常に明るい未来を信じて自身の可能性を大きく広げていって欲しいと思います。～ (令和5年度修了式校長式辞より一部抜粋)

## ご支援ありがとうございます

3月11日(月)、相双五城信用組合の職員の方がお見えになり、卒業祝いの記念品として3年生全員にシャープペンシル、クリアファイル、相馬市の名所を描いた5枚1組の絵はがきセットを贈呈頂きました。3年生を代表して生徒会長が記念品を受け取りました。

毎年のお心遣い本当に感謝いたします。



## 第63回卒業証書授与式を開催

3月13日(水)、9時30分より本校体育館において第63回卒業証書授与式を挙行了しました。新型コロナウイルスが5類に移行したこともあり、4年ぶりにご来賓の方々にご出席をいただいた中での開催となりました。

時間短縮のために、内容は従来とは一部異なったものとなりましたが、一人一人が一生懸命取り組んだ感動的な式となりました。卒業生のこれからの活躍を心から願いたいと思います。



【卒業生入場】



【卒業生代表答辞】



【最後の学活】

～三年前、私たちは、小学校の卒業を控え、中学校とはどのようなところなのか、友達はできるかなど、大きな期待と、強い不安で頭がいっぱいでした。今、こうして壇上に立っていますと、教室から体育館までの見慣れたはずのすべてが懐かしく、徐々に、この思い出いっぱいの三年間が、鮮やかによみがえってきます。真新しい制服に袖を通した三年前の四月、この体育館で新しい仲間と出会い、期待や不安を改めて感じた入学式。その日から一日一日が、まるで早送りのように過ぎていきました。私たちを迎え入れてくれた、先輩方の、大きく頼もしい背中に、強い憧れを抱いた、対面式や部活動紹介。初めての中体連、初めての定期テスト、初めての文化祭、初めての学年レクなど、手探りの中、同級生の仲間と協力し合い、乗り越えてきました。

中学校三年間の中で、最大の行事と言っても、過言ではない修学旅行は、東京、山梨へ。「修学旅行はあくまでも授業の一環。遊びに行くわけではない。」という先生たちの言葉を、肝に銘じ、事前にクラスの仲間や班の仲間と計画を立てながら、近づくその日に思いを馳せると、気持ちは高ぶっていきました。大自然、山梨での体験学習、日本の政治の中心である国会議事堂の見学。浅草の自由散策、東京ディズニーリゾートで、時間を忘れ、思いっきり楽しんだことなど、三日間で、友達との絆を、深めることができました。

全校生が一体となった最高のイベント、向陽祭。新型コロナウイルスの制限が緩和され、全校生と保護者の方々が体育館に入場することができました。各クラスの練習の成果が存分に発揮され、素晴らしいハーモニーが、体育館中に響き渡った、中学校最後の合唱祭。衣装や小道具を自分たちで準備した、三年生のクラス別発表。どの活動も準備は大変でしたが、成し遂げたあとの達成感は格別でした。

私たちの生活の一部となっていた部活動。入学当初、先輩たちの真剣に打ち込む姿を見て、そのレベルの高さに、三年間続けていけるか、とても不安でした。夏の、うだるような暑さや、凍えるような寒さの中でも、毎日本気で、打ち込んできました。勝利という一つの目標へ向かい、共に汗を流し、競い合い、助け合った日々は、かけがえのない、私たちの宝物です。

無我夢中で駆け抜けてきた、その一年後、二年後、新たな仲間ができました。在校生の、みなさんです。みなさんと部活動、生徒会活動で過ごした時間は、全てが大切な思い出です。四月からはみなさん進級し、一年生は先輩になり、二年生は学校の顔になることでしょう。何事も一人で成し遂げることはできません。共に助け合い、これまで以上に素晴らしい、新しい向陽中学校を創り上げてくれると信じています。

校長先生はじめ、諸先生方。先生方は、迷ったり、答えを見つけれずにいる私たちに、時には厳しく、時には優しく、導いてくださいました。私たちは、そのご指導を、煩わしく思い、反発したことすらありました。しかし、そのおかげで人間として成長した自分たちがいます。素晴らしい先生方に出会えたことを忘れず、先生方から教わったことを、これからの人生に活かしていきます。

今、式場に来てくれている、お父さん、お母さん。今まで照れくさくて言えませんでした、今日はこの場を借りて言えそうです。いつも困らせたり、心配かけたりしてごめんなさい。そして今日までたくさんの愛情で育ててくれて、ありがとうございました。私たちがここまで成長できたのも家族のおかげです。でも、これからも迷惑や心配をかけてしまうことがあるかもしれません。まだまだ未熟な私たちですが、これからもよろしくお願いします。最後になりましたが、卒業生のみんな、三年間ありがとう。たわいのない、休み時間のおしゃべりやケンカしたこと、はしゃぎ過ぎて先生に怒られたこと、共に過ごした教室や、みんなの、くしゃくしゃの笑顔、ふと思いついた時、私はその懐かしさに、きっと泣いてしまうと思います。私は、この向陽中とみんなのことが大好きでした。でも、私たち一〇七名でつづってきた物語も、幕を閉じなければなりません。明日からは、一人一人の、新たな物語が始まります。卒業生のみんな、覚えていますか。向陽祭のテーマ「挑戦 ～新しい未来へ～」を。まさに未来へ向け、新しい挑戦が始まるのです。向陽中学校で過ごした日々を胸に、笑顔で旅立ちましょう。～ (卒業生答辞より一部抜粋)

### <これからの主な行事>

- 3月25日(月) ・学年末・始め休業日 ～4月5日
- 29日(金) ・離任式 8:35～(8:25生徒体育館登校)
- 4月8日(火) ・入学式 ・始業式 ・1学年PTA

